

教員の指導力の向上について

本校では、SSH事業は全教職員が関わっており、組織的に教員の指導力向上の取り組みがなされている。

(1) 教科主任会・教科会を通じた指導力向上

教科主任会は、「拡大SSH-PJ」としても位置付けられている。SSH事業に関する課題は教科主任間で共有され、教科会を通して全教職員で課題解決にあたる体制を整えている。課題研究のカリキュラム等について話し合わせ、課題研究の指導を深める機会となっている。

(2) 小石川フィロソフィーⅢ・Ⅴ・Ⅵ担当者会議

課題研究に直接携わる教員の情報交換の場として、「小石川フィロソフィーⅢ・Ⅴ・Ⅵ担当者会議」がある。情報交換の場だけでなく、課題研究に長く携わっている教員の実践報告や、各講座で使用しているルーブリックを含めた評価表の紹介などが行われている。この会議を通して学校全体の課題研究の指導力向上を目指している。

(3) 教科融合・教科横断授業

第3期SSH研究開発テーマの「①6年間を貫く『高度な理数系カリキュラム』のさらなる改善」の中で、「教科融合・教科横断も推進」することを掲げている。例えば数学と美術、数学と物理などで連携授業を行っている。

また、他の教科でも取組が可能かどうかを検討する機会として、授業見学強化月間等を活用している。

(3) 先進校視察

例年、文系理系問わず多くの教員が先進校視察を実施しており、その成果を教科会等で報告し、全校に還元している。

(4) ベテラン教員との連携

課題研究に長く携わっていた教員OBと本校教員が連携し課題研究や科学系部活の指導にあたる機会が多い。例えば、「小石川フィロソフィーⅤ」で、教員OBと若手教員が共同で課題研究や指導に当たっている。ベテラン教員の経験を受け継ぐことで、指導力向上の良い機会となっている。